

普及活動情勢報告（令和 6 年 2 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

お米づくりは苗半作！～水稻育苗講習会の開催～



講習会の様子

1月29日、30日に、南国営農経済センターおよび南部資材店舗にて、水稻育苗講習会が開催され、11名の農家が参加しました。

農業改良普及課は、育苗時の水温管理の目安や、移植後のジャンボタニシ対策について説明を行いました。

参加者からは「種粃が痛むのを防ぐために自分たちにできる対策を教えて欲しい」「根張り不良にならないための対策は何かあるか」といった質問があり、健苗育成に意欲的な姿勢が見られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して栽培技術を指導し、高品質で多収量の米生産ができるよう支援します。

南国市の新たな営農の推進を目指して ～国営営農推進部会（第9回）の開催～



今後の取組等を協議

1月31日、J A 高知県南国営農経済センターで国営営農推進部会が開催され、南国市やJ A、振興センターなどの関係機関から25名が参加しました。

農業改良普及課からは、スマート農業によるキャベツの収量予測の取組状況を報告し、会議では国営基盤整備事業の進捗や露地野菜の実証結果等について協議しました。

参加者からは「生産拡大にはプレイヤー確保が課題」「農地確保や販売先の目処は立っているか」といった意見が出され、取り組みの課題や今後の計画等について確認しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、複合品目での生産や機械化体系等の検討を行い、南国市における新たな営農推進に取り組みます。

「稼げる農業」実現に向けて若手農業者が議論！ ～若手農業者座談会の開催～



ファシリテーターとして
意見を集約

2月1日、J A高知県土長地区本部で若手農業者座談会が開催され、南国市やJ Aなどの関係機関及び南国市の20～50代の農業者を含め58名が参加しました。

座談会では農業者28名が4班に分かれて「稼げる農業」や「地域計画とどう関わるか」などをテーマに議論し、農業改良普及課は座談会のファシリテーターを務めました。

参加者からは「労力対策として機械化が必要」「加工販売に力を入れるべき」「地域の農業を守るためには、子ども達に農業の魅力を伝えることが必要」などの意見が出され、出席者同士で意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、「稼げる農業」の実現に向けて支援していきます。

新たな挑戦！～オオバ栽培における天敵実証試験～



生産者と一緒に天敵を
放飼する普及指導員

2月2日、J A高知県香美地区園芸部大葉部会員のは場にて、天敵昆虫を放飼しました。施設オオバ栽培で問題となっているコナカイガラムシ類の防除は、登録薬剤が少なく薬剤感受性の低下が危惧されることから、I P M技術の確立が求められています。

農業改良普及課は、害虫の発生状況を調査した後、生産者とともにコナカイガラムシ類の天敵であるヒメカメノコテントウを放飼しました。

生産者からは「登録薬剤が少なく防除に苦慮している。防除効果がどうなるか今から楽しみ」と、オオバ栽培の新たな挑戦への期待が伺われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、オオバ栽培におけるI P M技術の確立を支援します。

今後の管理はどうする？～フルーツトマト現地検討会の開催～



今後の栽培管理について
検討する生産者ら

2月8日、J A高知県香美地区フルーツトマト部会現地検討会が開催され、生産者10名が参加しました。

J A高知県から、出荷状況報告及び果実選別時の注意点等について説明後、農業改良普及課から、今作の気象状況や葉柄分析の必要性と分析サンプル採取の注意点について説明しました。

その後の現地巡回では「今の生長点の太さだったらもっとかん水量を増やした方が良い」「天窓やサイドの開閉する時間や温度はどうしているか」など、生産者同士で活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、フルーツトマトの生産安定に向けて支援します。

山北みかんのブランド維持に向けて～「夢みかん」出荷反省会の開催～



活発な意見交換が行われています！

2月13日、J A高知県香美地区果樹部露地みかん部会の「夢みかん」出荷反省会が開催され、生産者と市場関係者ら合わせて8名が参加しました。

今年度産のミカンは一定の基準を満たした「夢みかん」として出荷できた割合が高く、生産者からは「量が多く、品質も良かった」「今は雨が少なく、樹に負担がかかっている。次作に向けて樹勢回復が必要」など、次作へ向けた意見やブランド維持のためのさらなる品質の追求など、市場関係者を含めた活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、露地みかんの高品質栽培を支援します。

思い切ったせん定を！ ～物部柚子生産部会せん定講習会の開催～



実演を注視する生産者

2月17日、J A高知県香美地区物部柚子生産部会せん定講習会が開催され、生産者24名が参加しました。

農業改良普及課は、せん定による受光態勢や作業性の改善効果について、実際にせん定を行いながら解説しました。

参加者からは「自分の園地になると惜しくてよう切らん」といった声が聞かれましたが、思い切ったせん定をすることで良い果実が付き、作業も楽になることを伝え、参加者同士でも「このぐらい切らんといかんがよ」と教え合う講習会となりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、物部ゆずの栽培管理技術向上に向けて支援します。